

令和6年度 第2回 福岡市環境審議会 議事要旨（概要）

- 1 日時 令和6年10月21日（月）16：00～18：00
- 2 場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール メインホール A
- 3 出席者（五十音順、敬称略）

氏 名	役 職 等
阿部 真之助	市議会議員
猪野 猛	福岡商工会議所 理事・事務局長
大石 修二	市議会議員
大原 弥寿男	市議会議員
大森 一馬	市議会議員
押川 千恵	独立行政法人国立病院機構福岡病院 耳鼻咽喉科 科長
包清 博之	九州大学 名誉教授
菊水 之恵	日本野鳥の会 福岡支部 幹事
木村 てつあき	市議会議員
小出 秀雄	西南学院大学 学術研究所長
砂入 成章	九州経済産業局 資源エネルギー環境部 次長
勢一 智子	西南学院大学 法学部 教授
高木 勝利	市議会議員
田中 綾子	福岡大学 工学部 教授
林 灯	九州大学 エネルギー研究教育機構 教授
原田 昌佳	九州大学大学院 農学研究院 教授
久留 百合子	リエゾンオフィス 代表／消費生活アドバイザー
松山 倫也	九州大学大学院 農学研究院 特任教授
馬奈木 俊介	九州大学大学院 工学研究院 教授
山内 勝也	九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授
山田 ゆみこ	市議会議員

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 会長の選出
- (3) 会長代理及び専門部会委員の決定
- (4) 循環型社会構築部会の報告
- (5) 福岡市環境基本計画（第四次）素案策定作業部会の進捗状況について
（現計画の検証等、次期計画の方向性）
- (6) 閉会

5 議事要旨

(1) 開会

環境局長あいさつ

(2) 会長選出

会長は、委員の互選により勢一委員に決定

(3) 会長代理及び専門部会委員の決定

- ・ 会長代理は、会長の指名により小出委員に決定
- ・ 専門部会は、これまでに引き続き「環境保全・創造部会」、「循環型社会構築部会」、「脱炭素社会推進部会」を設置することを決定
- ・ 環境保全・創造部会長は松山委員、循環型社会構築部会長は小出委員、脱炭素社会推進部会長は萩島委員に決定

(4) 循環型社会構築部会の報告

【委員】

資料 2-1 を基に概要報告

【事務局】

資料 2-2 について説明

(5) 福岡市環境基本計画（第四次）素案策定作業部会の進捗状況について

① 現計画の検証等

【委員】

資料 3-1 を基に概要報告

【事務局】

資料 3-2 について説明

【委員】

P37 の市役所におけるエネルギー起源二酸化炭素排出量の推移について、今後も再エネ電気に積極的に切り替えていくことは可能なのか。

【事務局】

一般会計に属する施設においては毎年度入札を行い、調達事業者を選定している。昨年度は電力量ベースで 52%の切り替えを行っており、今年度は契約ベースで市有施設の約 75%が再エネ電気で契約できている。水道施設や下水道施設についても切り替えを進めており、残っているのは、道路照明などの特殊な契約を行っている施設であるが、これらも今後切り替えを進めたいと考えている。2030 年度までに、一般会計に属する施設に関しては 100%再エネ電気に切り替えを行っていききたい。

【委員】

光化学オキシダントは環境基準が非達成で、今後も発生源対策を続けるとのことだが、二酸化窒素など光化学オキシダントの発生に繋がる項目は環境基準を達成しており、自治体としては具体的にどのような対策を想定しているのか。

【事務局】

光化学オキシダントについては、国内での達成率は 0.1%で、全国的に見てもほぼ達成できていない状況である。福岡市は産業構造上工場が少なく、大幅な削減は見込めないが、自治体としては事業場に対する指導などにより、引き続き原因物質である窒素酸化物や VOC などの削減を行っていききたいと考えている。

【会長】

光化学オキシダントは自治体でできることは限定的である。広域的な取組が重要である。

【委員】

博多湾の保全について、リンなど、貧酸素の原因となる物質は少なくなっていると思うが、貧酸素水塊は継続的に発生している。以前、博多湾のデータを見せてもらったときに、博多湾には土砂の採取による窪地が結構存在していると聞いた。貧酸素水塊を解消することはなかなか難しいと思うが、測定地点や評価の仕方について検討してもよいと思う。

【事務局】

現在、国が窪地の埋め戻しを行っており、令和 9 年度に埋め戻しが完了する予定と聞いている。窪地の埋め戻しが完了した後に、状況を確認し、今後の対策を考えたい。

【委員】

P50 の全市域における緑の面積の増減について、その他の+192 というのは何が増えているのか。

【事務局】

再開発されたビルの緑地などではないかと考えるが、データを再度確認する。

【会長】

全国的な傾向として再開発に伴って都市の緑が増えていることがある。福岡都市圏のようにまとまった緑地を確保しづらい地域において、都市の中に小さな緑地をたくさん確保することは、生物多様性にとっても重要である。

【委員】

P32 の車種別の構成について、全国と比較して、福岡市の特性が何かあるか。福岡市は産業構成の特色があるため、例えば、小型軽貨物が多いなどの傾向が見えれば、電動化が推進しやすいといった分析などもできるため、具体的な政策立案に繋がると思う。

【事務局】

全国平均と比較すると、小型貨物の割合が小さい可能性はあるが、詳細な分析は行っていないので、今後データを分析したい。軽貨物車は、電気自動車の車種が販売されており、EV との親和性が高いと考えるが、大型のトラックなどは EV の車種自体がないため、合成燃料の活用や福岡市の水素リーダー都市プロジェクトにおいても推進している FCV の活用などにより、長距離輸送の脱炭素化を図っていくことが福岡市の特性に合っていると考えている。

【委員】

P51 の自然共生の課題にも記載があるが、カーボンニュートラルの実現に向けて、二酸化炭素の吸収源となる緑の質的向上を図る取組みが必要と考える。そのため、緑の面積だけではなく、緑の質を評価する指標についても検討した方が良いと思う。

② 次期計画の方向性

【事務局】

資料 3-3 について説明

【委員】

キャッチフレーズは大切で市民に伝わりやすいものがよい。案 1 と 2 を組み合わせたような「都市と自然が調和した、誰もが住み続けたいアジアのモデル都市」ではいかがか。「心豊かに暮らせる」が抽象的でわかりにくいと感じた。

【委員】

「アジアのモデル都市」と言える都市は少なく、唯一福岡がそう言える都市と思うので、福岡らしさという観点からもう入れてもらいたい。

【委員】

やわらかい表現がよい。「環境・経済・社会が好循環した」や「快適環境都市」などはやや固い表現の印象がある。

【委員】

環境政策については、都市が衰退し人口が減ると環境指標は改善するというようなネガティブなイメージになりやすいため、めざすまちの姿の議論にあたっては、福岡市の成長戦略に対して、環境政策がどういう場面で、どのように貢献するかが読み取れる文言があるとよいと思う。一人ひとりが環境に対して行動すればするほど、まちが発展することがイメージできる言葉がよい。どの案もおとなしい表現にとどまっている印象があるため、誰もが住み続けたいなど、ポジティブな文言があり、市民・事業者等が自分事として、めざすまちの姿をイメージできるとよい。

【委員】

市民一人としてみたときに、どういう行動をするのか、何のために行動できるかは非常に重要であるが、計画全体の構成案をみると、まず、まちの姿を掲げて、その下に行動指針が構成されるようであるため、まちの姿の中で行動まで見えなくてもよいかもしれないと感じた。また、案に挙がっている「アジアのモデル都市」は魅力的なキーワードである。また、「循環」についても、循環経済など、国の目標に入っており、読む人にイメージを広げてもらえる象徴的な言葉であるため、重要と思う。

【委員】

案1でも良いと思ったが、冒頭に都市という言葉があって、最後にまた都市が出てくるのはやや違和感がある。

【委員】

作業部会では、なぜ「アジア」なのかの議論はなかったが、これだけ立派な計画を作るのであれば「世界のモデル都市」でも良いのではないかと思った。また、「都市環境」は今までにこれだけのものを作ってきたという市の思い入れが強い言葉と考えるため、「都市環境と自然が調和した、心豊かに暮らせる誰もが住み続けたいまち」などの組み合わせではいかか。

【会長】

これまでの総合計画を含め、福岡市が歩んできた道のりを考えた際に、東京や大阪を向くわけではなく「アジア」というのが福岡市のアイデンティティなのだと理解している。また、環境政策において、アジア諸国と繋がっていくことが、越境大気汚染対策等、アジアの国々の環境の底上げに繋がるし、福岡市の環境にとっても良いと思う。

【委員】

環境基本計画であることを考えると、案２の「環境」というキーワードが用いられていることに違和感がある。案２をベースとして、例えば「自然・経済・社会が好循環した、誰もがまちの魅力に貢献できる環境づくり」ではいかかが。

【委員】

案１について、環境と自然だと同じような意味合いに感じるため、環境という言葉は除き、「都市と自然が調和した」とした方がよい。

【会長】

案１をベースに、案２のエッセンスを組み込むというのが、委員の総意であると感じた。この案で決定とはならないと考えるが、事務局で案を再整理するとともに、引き続き作業部会で検討する方向でよろしいか。また、本日いただいた意見を踏まえた、資料の修正確認については会長一任で責任をもって対応したい。

（異議なし）

（６）閉会

以上